

## 平成23年度まちづくりミーティング in 鮎貝

期日：11月17日（木） 午後7時～午後8時45分

場所：鮎貝地区公民館 参加者22名

**Q. 高齢化が進んでいくので、西中跡地に老人ホームを設置してほしい。**

A. 老人ホームの設置に関しては、運営母体となるであろう福祉法人などとのすり合わせや補助金など課題となることがたくさんありますので、ニーズなども把握したうえで検討してまいります。要望として承ります。

**Q. ・中学校の統合については決定事項でくつがえることはないのか？  
・今後荒砥橋の架け替えが進むと鮎貝地区はさらにさみしい地区になるのではないかと心配だ。**

町長：学校統合については、平成18年に教育委員会から方向性が出されました。鮎貝地区からも統合の要望があったと聞いています。しかし、統合というのは難しい問題なので、さらに時間をかけて検討していただいた経過があります。最終的な判断はこれからさせていただきますが、これまでの経過を尊重しなるべく早い段階で決定させていただく予定であります。

教育長：平成17年に小中学校のあり方についての検討会を設置し、平成18年に教育委員会として決定しました。その後、出生数下げ止まりや、子どもたちの教育環境などの見地から再度検討を行い、小学校は現状維持・中学校は統合と決定しました。現在西中学校は全学年が2学級であります。中学校の課程では9科目を受けることになっていますが、現在の状況ですと教員不足で専門的な学習が受けにくいという問題があります。子どもたちが伸びるためにはしっかり学ぶ環境が重要で、自分の進みたい進路を目指していただきたいと考えています。また、部活動も数に限りがあるなど人数が少ないことによるデメリットも少なくないということから今回の決定に至ったところであります。

**Q. 9科目の教員がそろっていないのはいつからか**

教育長：1 学年 2 学級になったときからです。

町長：誰も統合はしたくないという思いだと思うが、現在の状況だと誰かがどこかで決断しなければなりません。今後もていねいな説明をしていきたいと思えますし、統合後は町の対応が重要になると理解しているところです。

**Q. 統合した場合の人数と規模は？**

教育長：統合時で 14 学級、特別学級 2 学級で 414 人の予定です。現在長井南中が約 450 人。長井北中が約 370 人なのでその中間の規模となる予定です。

**Q. 西中跡地の利用はどのように考えているのか。**

町長：3.8 ヘクタールという広大な敷地であり、町にとって大変貴重な財産であります。これまで学校用地として利用してきたこともありますし、まだ統合決定ではないので現時点では特に活用案はございません。今後さまざまなご意見をいただきながら検討していきたいと思っています。

**Q. 学校統合に関しては、なかなか町民に伝わってこないのが教育委員会だけで決めているという印象があるが**

町長：十分な検討時間をもち広報紙などを活用して公表しているところです。ただし、それだけで伝わるとも言えませんので、今後もより一層丁寧な説明をさせていただくつもりです。

**Q. 今回の様な座談会は、町の考えやまちづくりについて聞くことのできる大変良い機会だと思う。しかし、参加者が少ない。どのような周知方法をとったのか。**

A. 広報おしらせ版での案内と町ホームページ、各区長へ依頼したところです。昨年の座談会は統合問題があったので学校関係者や保育園関係者などにも案内しました。

町長：お知らせの方法は今後検討する必要があると思っています。来ていただ

けるだろうという思いがありました。これからは丁寧な対応に心がけてまいります。

区長：このような集まりは関心のある人は参加するが、そうでない人は直接声掛けしなければ集まらない。問題を抱えている地区の方などには積極的に参加してもらいたいが、なかなかうまくいかない。区長・町内長はそのような状況でもがんばっていただいている。

**Q. 子育て・雇用は大変重要なことだが、人口の流出はなかなか止められない。これからは、60歳以上の定年退職された都会の方などを上手に活用する方法もとっていかねばならないのではないか。**

町長：宝前町や鮎貝土地区画整理地などはそういう狙いで整備しています。ただ、現実的に医療や買い物などの不便さから戻ってしまう方もいます。これからは、別荘的な感覚で町に来ていただけるような対策や、空き屋を上手に使った事業を展開していかねばならないと思っています。大変大事な視点であり、今後検討していきたいと思えます。

**Q. 人口減少や高齢化で成り立たなくなる地区が出てくる。消防団なども含めた行政の統合などといった問題についての対応は？**

A. 町の高齢化率は30%を超えており集落問題は大きな課題であります。消防団などは最近若い人が入ってきているようですが、問題は選挙の際の投票所です。町内に23カ所ありますが、管理者や立会人を地区から選出するのも大変な地区があります。いずれ変えていかねばならないことですが簡単なことではありません。皆さんからご意見をいただきながらより具体的に検討していきたいと考えています。

町長：町がどうしろというよりも、地域全体として選択していくことも重要です。鮎貝地区全体として一番良い方法を選択していただきたいと考えています。

**Q. 役場の老朽化は相当ひどいと思うが？**

A. 今回の大震災を経験し、役場の重要性や中枢的なものだということを改めて感じました。これまでは耐震調査も行ってきませんでした。震災を経験し今年調査を実施したところで、まもなく耐震診断結果が出てきます。中央公民館や図書館、消防分署なども含め、施設については改築か新築、また場所も含めて慎重に検討していきたいと思います。大きな決断が必要になりますし、まずは状況報告とさせていただくこととなります。

**Q. 公共施設を川西地区に建設しては？**

町長：施設を作ると言うことは簡単ですが、きちんとした理由づけが必要です。し財政面の課題も大きいものがあります。さまざまな部分に影響がでてくるので慎重に進めたいと考えています。

また、まちづくりに関しては「西」も「東」もないと思っていますので、同じ目線で取り組んでいくつもりです。皆さんのご理解ご協力をお願いしたいと思います。

**Q. 鮎貝まちづくりが NPO 法人として活動しているが、町の支援体制はどのようになっているのか？**

A. 現在町内には3団体ありますが、2団体は休眠状態です。他の自治体では多くの NPO 法人が設立されていますが白鷹は少ない方です。それは地域の要望に行政が対応してきたという部分が大きいと思われれます。他の地区では仕事として活動しているところが多く、町の課題としては中心となって活動してくれる人材が少ないことだと考えています。鮎貝地区で勉強会が開催されますので NPO について皆さんにも学んでいただきたいと思います。現状で町が行う支援は、団体に対して業務を委託することぐらいであると思われれます。

**Q. パレス松風については、毎年赤字のようだが町からの支出でなんとかなっている。税金を投入しているのだから、来年からプロジェクトチームを立ち上げてきちんと管理していただきたい。また、職員の資質向上をお願いしたい。**

A. パレス松風は、毎年赤字ではない。アルカディア財団に業務委託しており、

管理部分と営業部分の2本立てとなっています。町は委託している部分の支出はありますが、赤字補てんなどは行っていないということをまずはご理解いただきたいと思います。

アルカディア財団は、来年から一般公益法人（株式会社に近いもの）となり、経営改善計画も提出されていますので、これまで以上に努力していただかなければならないと考えています。職員の資質向上についてもおもてなしの心の醸成に努めていただくよう伝えておきます。

**Q. 竹下内閣時、各自治体で自由に1億円を使えるというものがあったが、町の取り組みとその効果についてはどうか。**

町長：町は若者の人材育成に使わせていただき総勢100名以上の方が自分たちで企画した研修に取り組んできました。現在、参加した多くの方が町内に残りさまざまな形でまちづくりに寄与されていると考えています。